

学内外の実習を重ねるごとに 一步一步夢に近づいている事を 実感しました

看護学科 4年

M.K.さん

群馬県立太田東高等学校 出身

私が看護師を志したのは小学生の頃です。祖父が入院した際に、患者だけでなく家族にまで寄り添ってくれている看護師の方を見て、自分も「看護師になって人の役に立ちたい」と思うようになりました。オープンキャンパスで先輩方の話を聞いて魅力を感じ、専門的な知識だけでなく一般教養も学べる桐生大学に入学を決めました。1年次は主に座学の授業や基本的な技術についての授業が中心でしたが、先生方が現場で実際に起きている事例を取り入れながら授業を行ってくれたので、臨床に出てからの事を意識できました。特に技術の授業では、小さな事でも何か一つ出来るようになるだけで、夢にどんどん近づいている実感がありワクワクしました。2年次になると初めて本格的な病棟での実習があり、実際に患者さんと接し一生懸命看護した事は、今でもずっと印象に残っています。実習は、年次を追うごとに専門性が深まります。3年次は領域別の実習を約半年間経験し、2年次の病棟実習では見えなかった新たな発見の連続でした。「患者さんに寄り添う」というのは病状の把握だけではなく、患者さん一人ひとりの気持ちを受け止め、それぞれに合ったより良い看護を提供する事であると感じ、自分が行いたい看護を一方向的にするのではなく、「心に寄り添うこと」の大切さを学ぶ事が出来ました。また、この半年間の実習の中で経験した母性看護学実習で、助産師になりたいという新たな夢を見つける事が出来ました。卒業後は助産師になる夢を叶えるため、桐生大学の別科助産専攻に進学します。ここでさらに学びを深め、この大学で培った知識と技術を活かして、信頼される助産師になりたいと思っています。

